

# 保険料率周りの検証



# 収支の構造

収入		
科目	全国	石川支部
保険料収入	8,414,171	98,716
その他収入	17,878	201
債権回収	10,685	117
債権回収以外	7,193	84
収入合計	8,432,049	98,917

○数値は28年度決算額を使用  
○単位は百万円  
○石川支部の総報酬按分率 0.0117296

支出			
科目	全国	石川支部	
第一号経費	医療給付費	4,339,502	51,149
	調整額	0	-212
第二号経費	現金給付費等	383,629	4,505
	抛出金等	3,042,757	35,731
	前期高齢者納付金	1,276,124	14,985
	後期高齢者支援金	1,657,326	19,462
	退職者給付抛出金等	109,306	1,284
第三号経費	業務・一般管理費	138,797	1,630
	その他支出	28,629	336
	特別計上	69	0
	平成26年度の精算	0	336
支出合計	7,933,382	93,165	

## 解説

### 《収入》

- ・支部の保険料収入は総報酬額に保険料率を乗じて算出
- ・その他収入の債権は支部の債権回収高の実額
- ・その他収入の債権回収以外は全国計に支部の総報酬按分率を乗じて算出

### 《支出》

- ・医療給付費は実費
- ・調整額は、年齢・所得・激変緩和の調整額の和
- ・現金給付費・抛出金等・事務一般管理費・その他支出は全国計に支部の総報酬按分率を乗じて算出
- ・特別計上は、支部の事業費で一定額を超える場合計上
- ・平成26年度の精算は、平成26年度の見込み収支差と決算の収支差の差額

### 《収支差》

- ・単年度収支の結果で、準備金に繰り入れる額

## 収支差

498,667

5,752



全国健康保険協会 石川支部  
協会けんぽ

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/>

# 見込推計値と決算確定値のバックデータ (平成22年度～平成29年度)

全国

単位 (百万円)

年度	区分	適用 保険料率	均衡 保険料率	激変緩和率	収入計	第一号経費	第二号経費	第三号経費	その他支出 特別計上	支出計	単年度収支	準備金残高
平成22年度	見込推計値	9.34	9.13	15.00	6,638,715	3,539,265	2,822,748	126,233	242	6,488,488	150,228	-63,800
	決算値		8.99		6,768,715	3,586,705	2,819,090	108,770	102	6,514,667	254,048	
平成23年度	見込推計値	9.50	9.42	20.00	6,796,413	3,625,374	2,970,439	144,581	205	6,740,599	55,814	195,091
	決算値		9.15		6,935,169	3,600,617	2,963,702	111,864	95	6,676,278	258,892	
平成24年度	見込推計値	10.00	10.03	25.00	7,142,889	3,755,173	3,241,195	146,343	178	7,142,889	0	505,570
	決算値		9.58		7,355,297	3,669,197	3,225,279	126,542	88	7,021,106	334,191	
平成25年度	見込推計値	10.00	10.07	25.00	7,408,406	3,837,778	3,415,339	155,169	120	7,408,406	0	692,205
	決算値		9.75		7,509,520	3,780,780	3,415,929	126,104	72	7,322,885	186,635	
平成26年度	見込推計値	10.00	10.08	25.00	7,599,811	3,984,962	3,440,076	174,626	147	7,599,811	0	1,064,807
	決算値		9.52		7,849,338	3,903,402	3,425,170	148,079	85	7,476,735	372,603	
平成27年度	見込推計値	10.00	9.74	30.00	7,865,073	4,100,554	3,396,245	168,085	137	7,665,021	200,052	1,310,074
	決算値		9.69		8,059,944	4,241,576	3,416,492	156,522	87	7,814,678	245,266	
平成28年度	見込推計値	10.00	9.52	44.00	8,238,573	4,246,063	3,416,026	185,304	103	7,847,496	391,078	1,808,740
	決算値		9.40		8,432,049	4,339,502	3,426,386	167,426	69	7,933,382	498,667	
平成29年度	見込推計値	10.00	9.72	58.00	8,693,172	4,545,569	3,658,001	247,570	153	8,451,293	241,879	
	決算値											

解説

- ・見込推計値とは、次年度保険料率の議論時に推計した収支見込み
- ・適用保険料率とは、当該年度に適用された保険料率
- ・均衡保険料率とは、収支を均衡させた場合に必要な保険料率で、見込推計値と決算値で算出

## 見込推計値と決算確定値のバックデータ (平成22年度～平成29年度)

## 石川支部

年度	区分	適用 保険料率	均衡 保険料率	激変緩和率	収入計	第一号経費	第二号経費	第三号経費	その他支出	支出計	単年度収支	準備金残高
平成22年度	見込推計値	9.36	9.15	15.00	83,387	44,529	35,390	1,583	2	81,504	1,883	88
	決算値		9.01		82,506	44,795	34,307	1,324	0	79,426	3,080	
平成23年度	見込推計値	9.52	9.44	20.00	83,373	44,574	36,359	1,770	-12	82,690	683	3,202
	決算値		9.17		85,155	44,342	36,342	1,372	-13	82,043	3,113	
平成24年度	見込推計値	10.03	10.06	25.00	87,984	46,370	39,805	1,797	12	87,984	0	7,206
	決算値		9.60		88,310	44,166	38,613	1,515	12	84,306	4,004	
平成25年度	見込推計値	10.03	10.11	25.00	88,955	46,204	40,834	1,856	62	88,955	0	9,559
	決算値		9.77		89,376	44,924	40,542	1,497	62	87,024	2,352	
平成26年度	見込推計値	10.03	10.12	25.00	91,289	48,014	41,187	2,090	-3	91,289	0	14,158
	決算値		9.53		93,246	46,318	40,576	1,754	-3	88,645	4,600	
平成27年度	見込推計値	9.99	9.73	30.00	93,257	48,716	40,305	1,996	-137	90,879	2,378	17,050
	決算値		9.66		95,410	50,332	40,466	1,854	-137	92,514	2,896	
平成28年度	見込推計値	9.99	9.51	44.00	97,500	50,390	40,469	2,195	-186	92,867	4,633	22,802
	決算値		9.41		98,917	51,149	40,236	1,966	-186	93,165	5,752	
平成29年度	見込推計値	10.02	9.74	58.00	103,162	54,014	43,331	2,933	18	100,296	2,865	
	決算値											

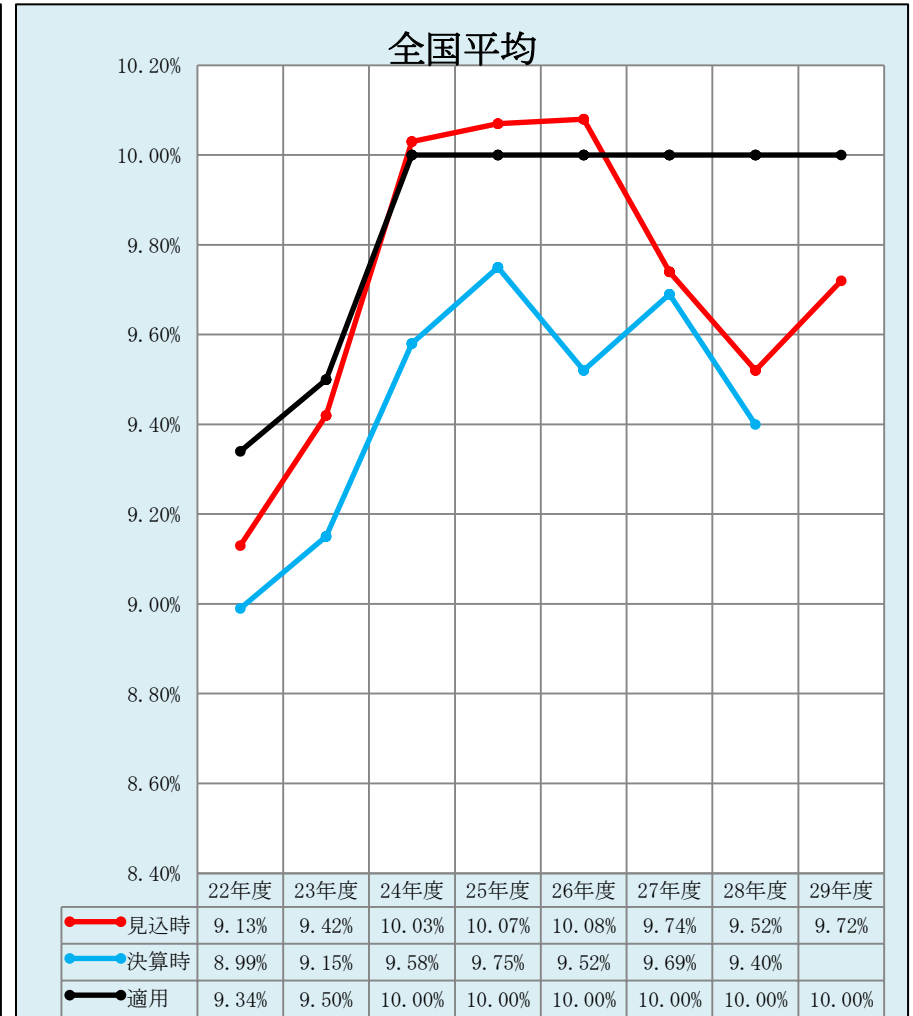
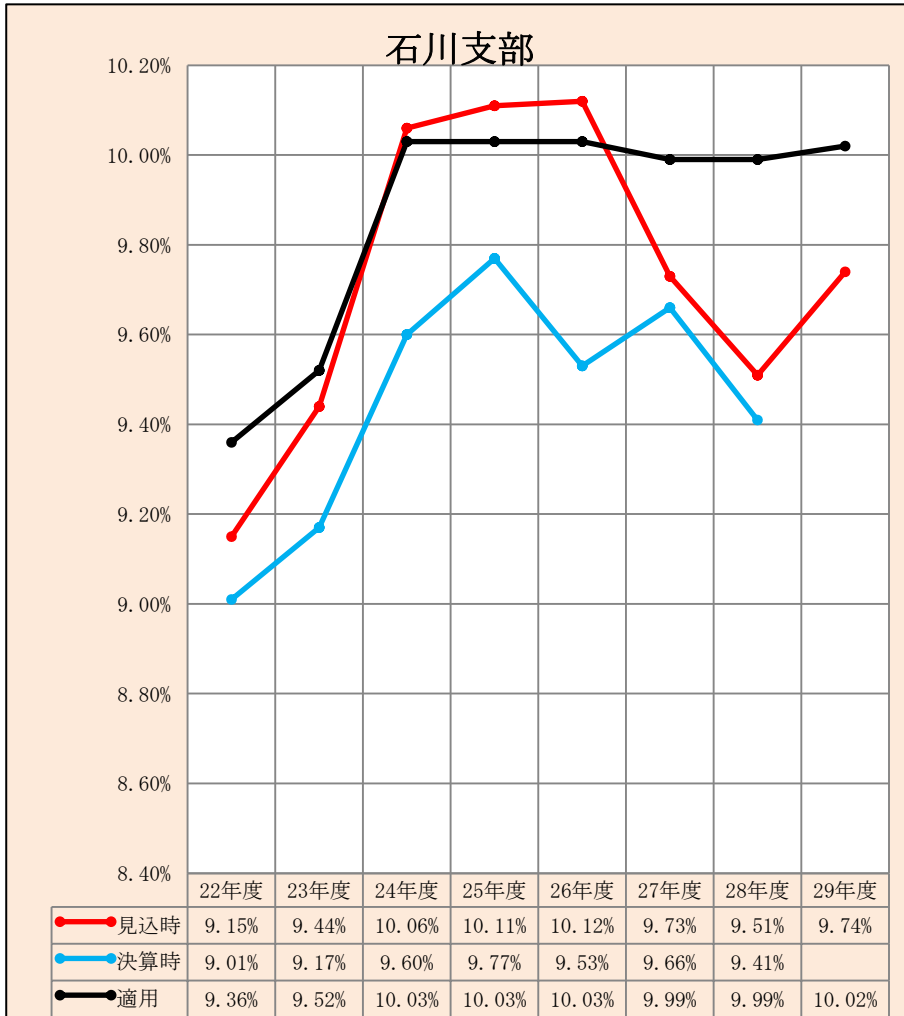
単位 (百万円)



全国健康保険協会 石川支部

協会けんぽ

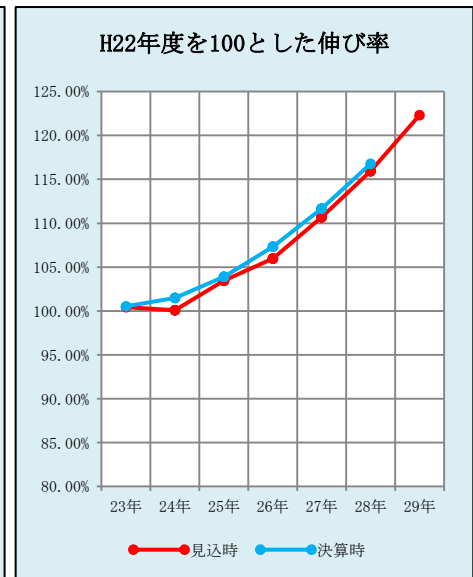
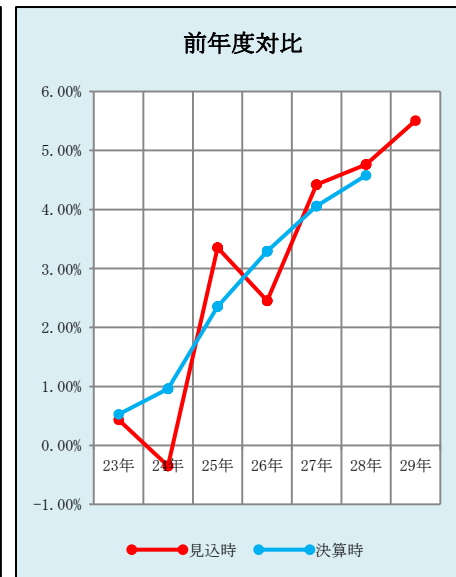
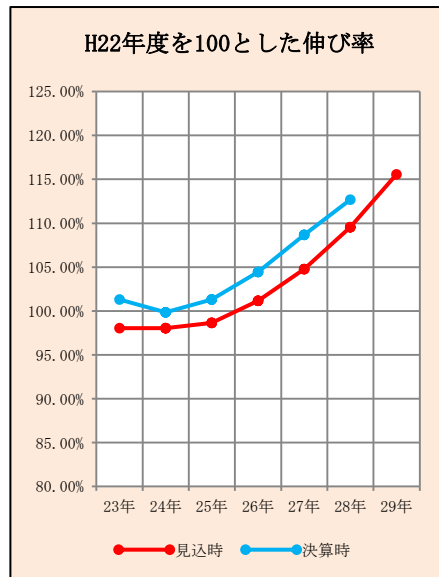
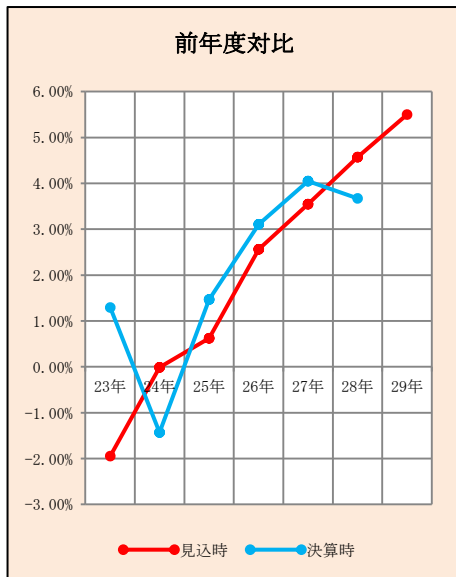
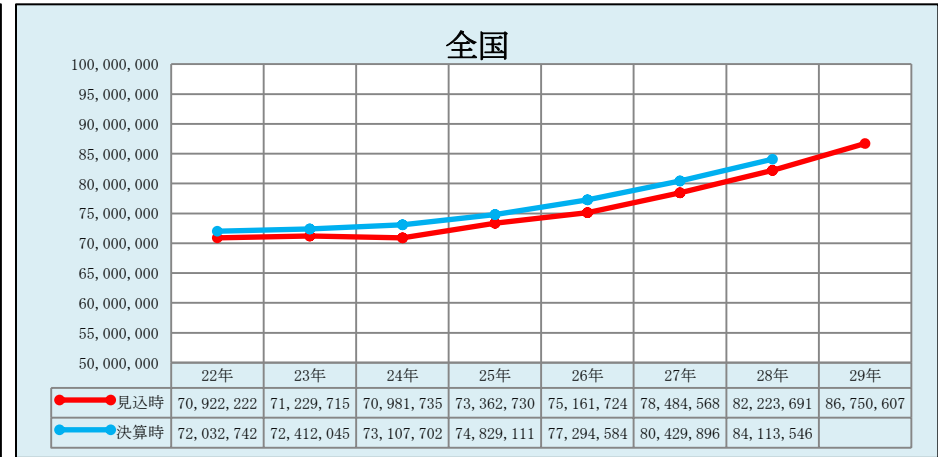
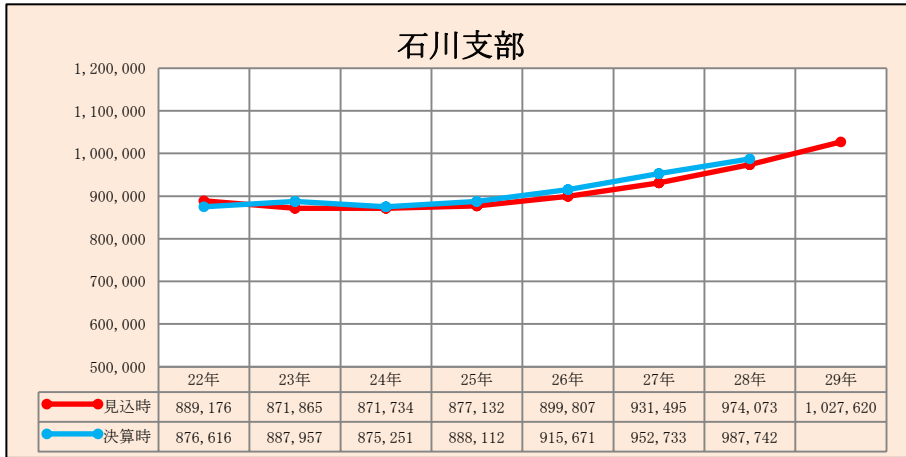
http://www.kyoukaikenpo.or.jp/



## 特徴

- ・平成25、26年度は、平成24年度保険料率の維持を前提に準備金の取り崩しを予定していたが、均衡保険料率は結果的に10%を下回った。
- ・平成27年度以降は、見込推計時の均衡保険料率、決算時の均衡保険料率ともに適用保険料率を下回っている。
- ・見込推計時の均衡保険料率と決算時の保険料率との関係では、見込みは決算を上回り続けている。





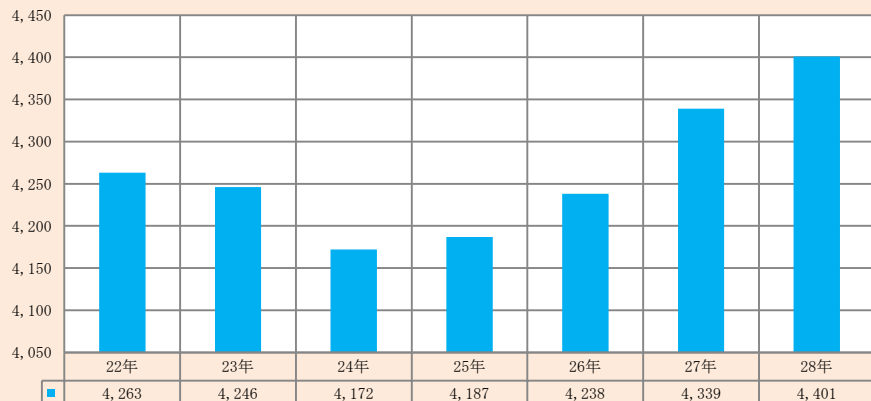
特徴

- ・全国平均は伸び続けているが、石川支部は平成24年度のみ前年度を下回った。
- ・全国平均の伸びと比較すると石川支部の伸び率は低い。
- ・見込値より実績値が上回り続けている。

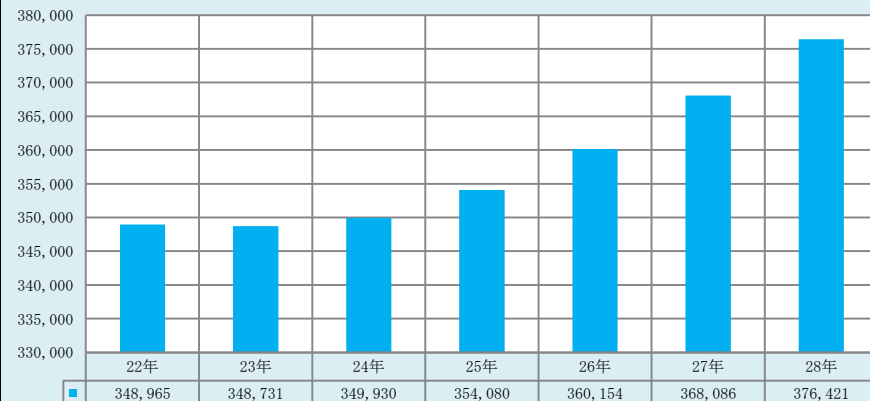
# 加入者数の推移 (平成22年度～平成29年度)

# 指標の部

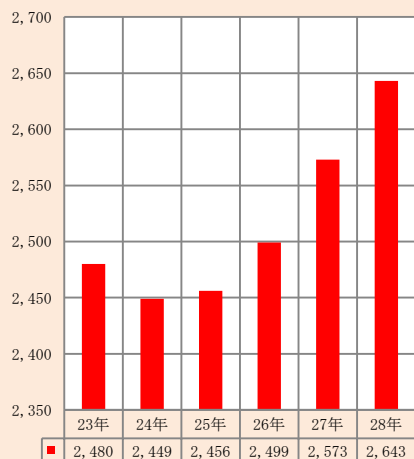
### 加入者数 (石川)



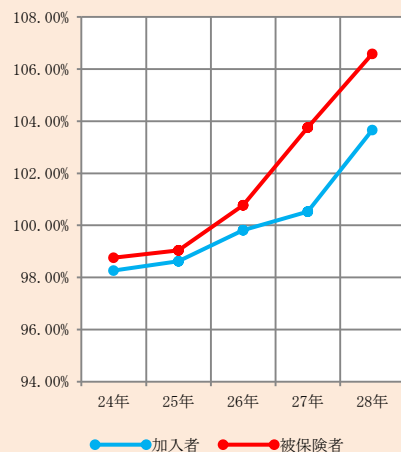
### 加入者数 (全国)



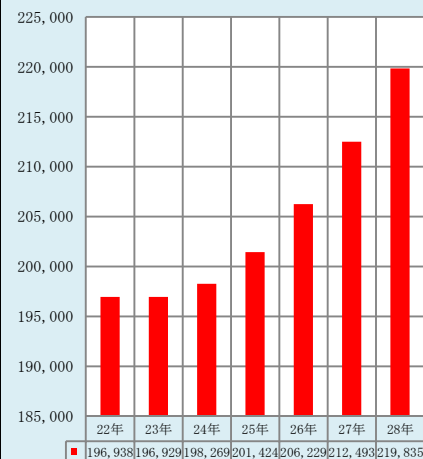
### 被保険者数 (石川)



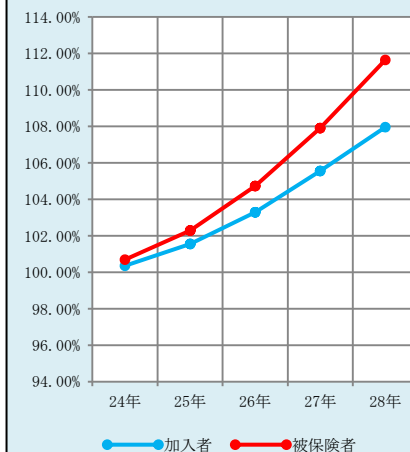
### H23年度を100とした伸び率



### 被保険者数 (全国)



### H23年度を100とした伸び率

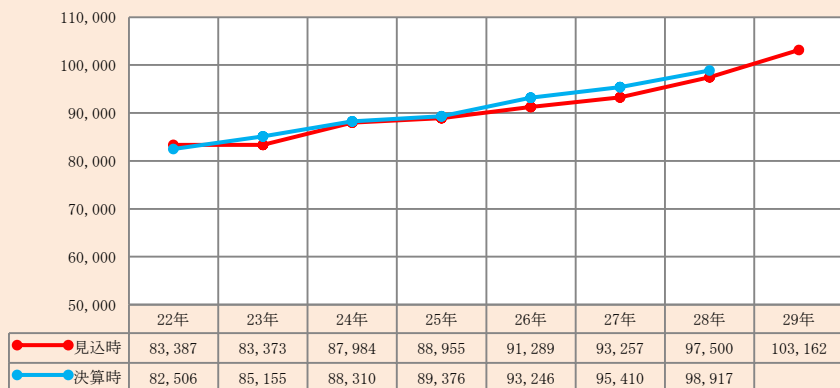


特徴

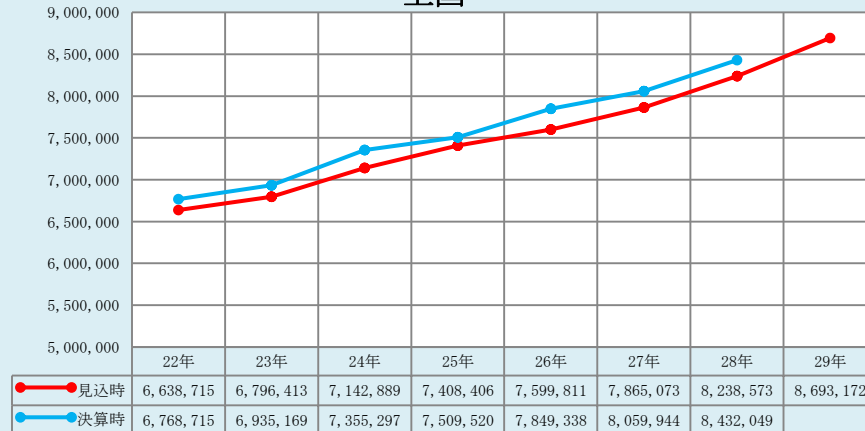
- ・加入者数は、全国平均と支部のトレンドに相違があり、地域性が表れる。(被保険者数も同様)
- ・全国平均・石川支部とも、加入者・被保険者ともにトレンドとしては伸び続けている。
- ・全国平均の伸びに比べて石川支部の伸びは低い。(加入者、被保険者ともに半分程度の伸び率)



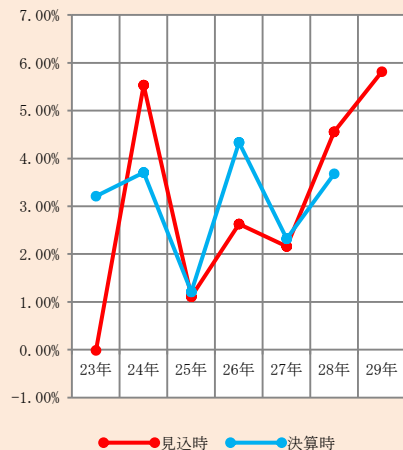
## 石川支部



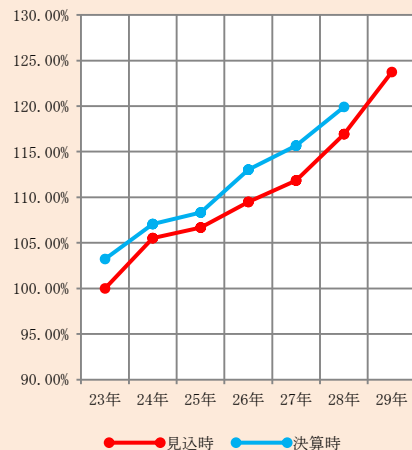
## 全国



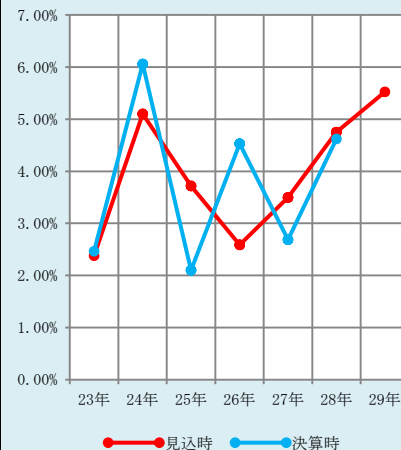
### 前年対比



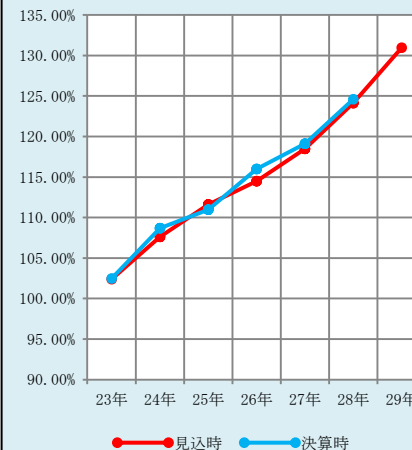
### H20年度を100とした伸び率



### 前年対比



### H22年度を100とした伸び率

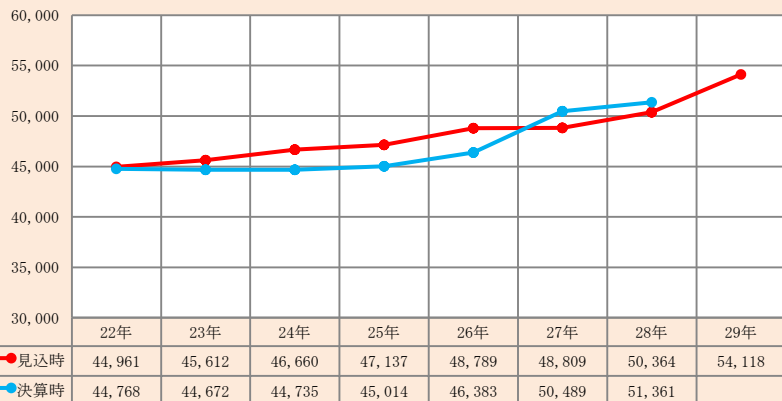


特徴

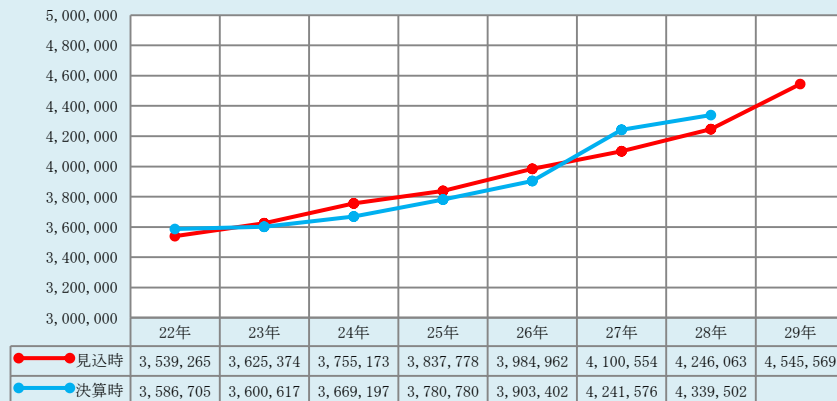
- ・収入は、全国・石川支部ともに伸び、決算値は見込値を上回り続けている。
- ・石川支部の伸びは全国の伸びを下回っており、見込値と決算値の乖離幅が大きい。
- ・前年対比の伸び率は、年度ごとの伸びに振れ幅がある。



## 石川支部



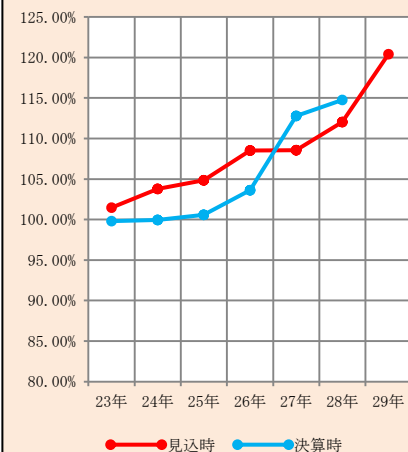
## 全国



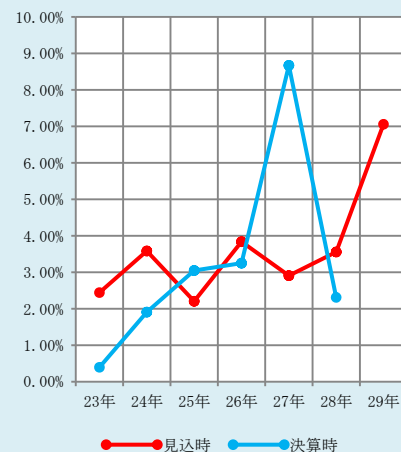
### 前年対比



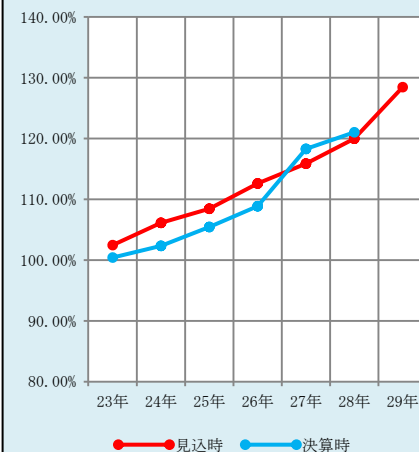
### H22年度を100とした伸び率



### 前年対比



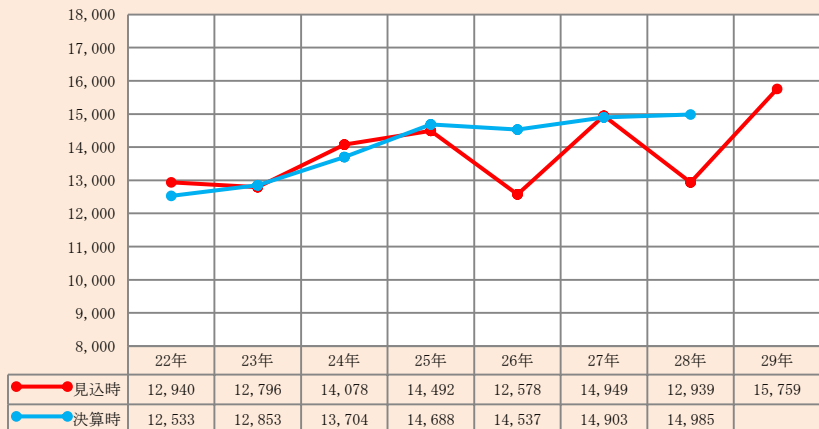
### H22年度を100とした伸び率



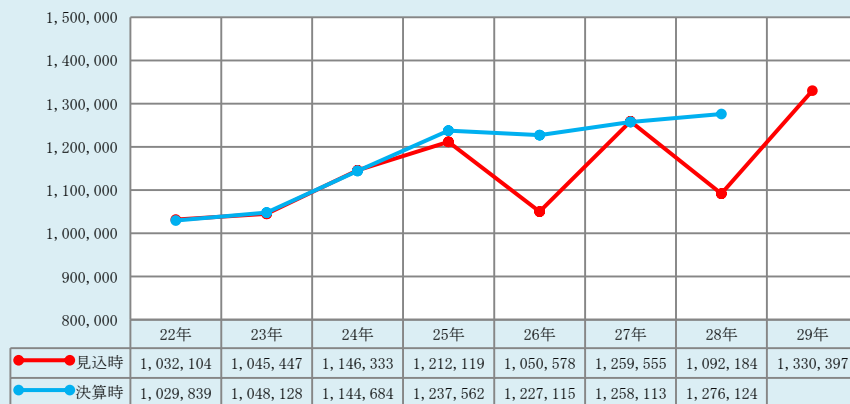
特徴

- ・ 27年度は見込値を実績値が大きく上回っており、高額薬剤の影響が表れている。
- ・ 医療給付費は伸び続けているが、石川支部は全国平均の伸びを下回っている。

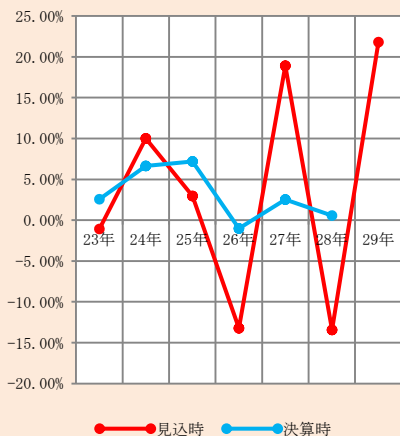
## 石川支部



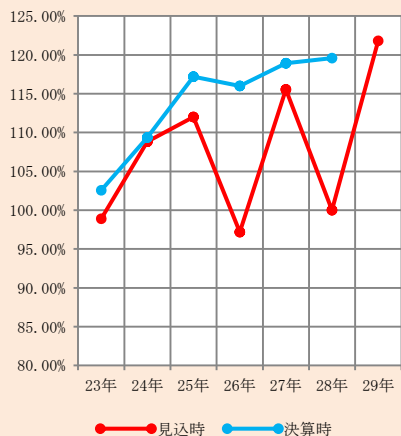
## 全国



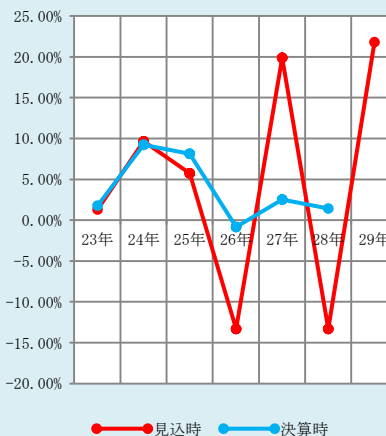
### 前年対比



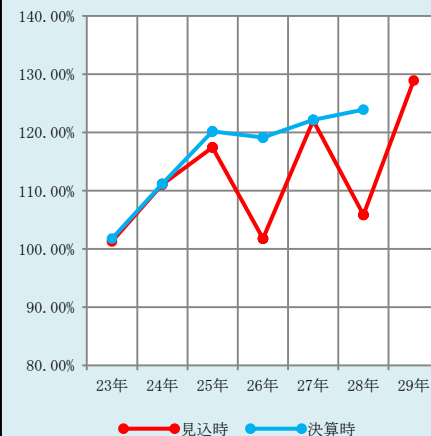
### H22年度を100とした伸び率



### 前年対比



### H22年度を100とした伸び率



特徴

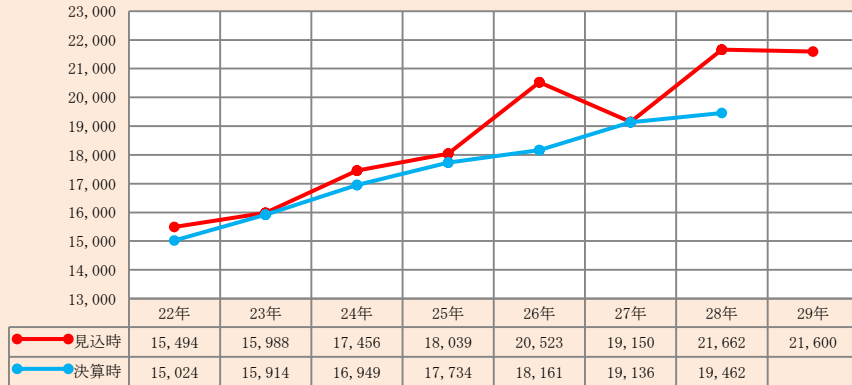
- ・平成24年度までは見込値と実績値の乖離は小さいが、平成25年度以降乖離が上下に大きくぶれている。
- ・実績値は、平成25年度まで高い伸びを示しており、平成26年度以降は伸びが鈍化している。



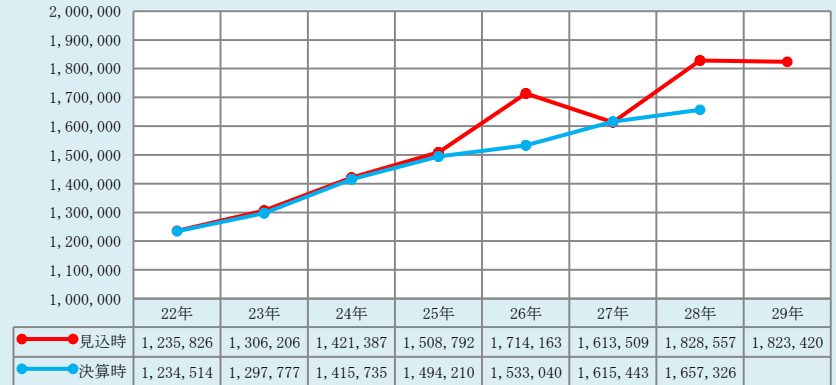
# 後期高齢者支援金の推移 (平成22年度～平成29年度)

# 支出の部

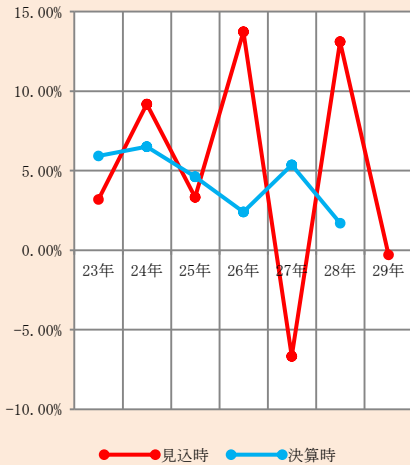
## 石川支部



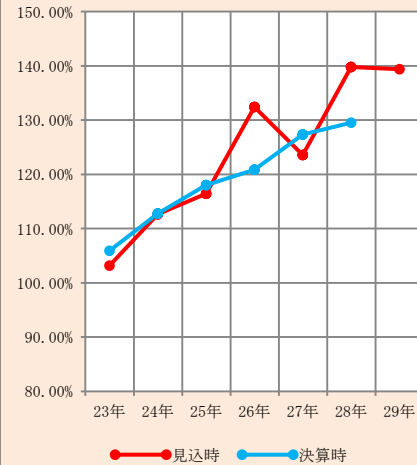
## 全国



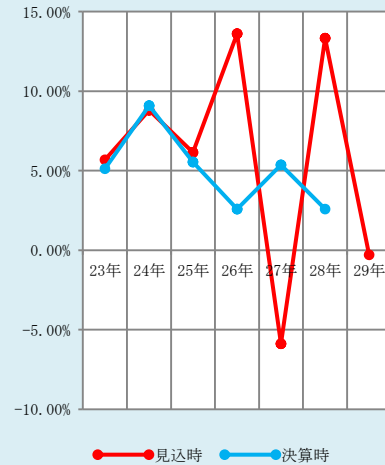
### 前年対比



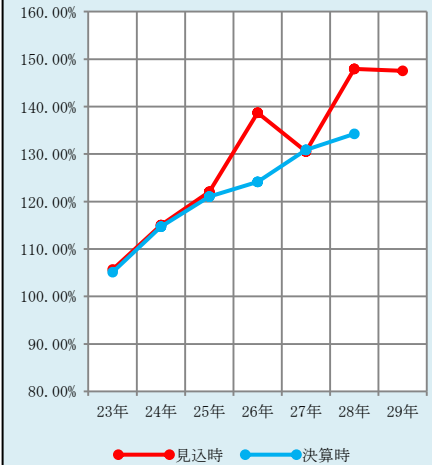
### H22年度を100とした伸び率



### 前年対比



### H22年度を100とした伸び率



特徴

- ・見込値の波動は、前期高齢者納付金と類似しているが、平成26年度以降の波動は前期高齢者納付金と逆にぶれている。
- ・支出項目の内、最も高い伸び率を示している。



全国健康保険協会 石川支部

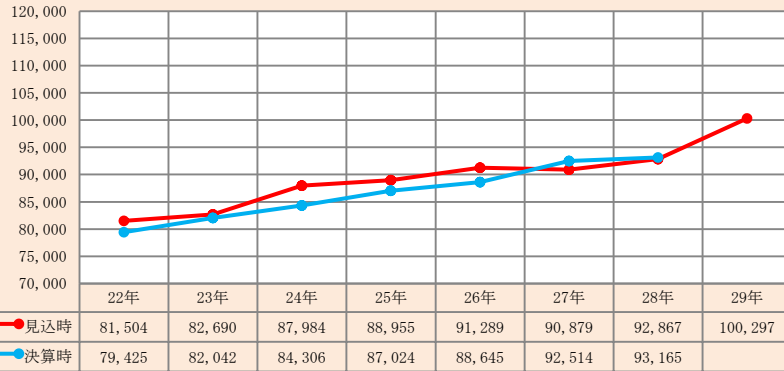
協会けんぽ

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/>

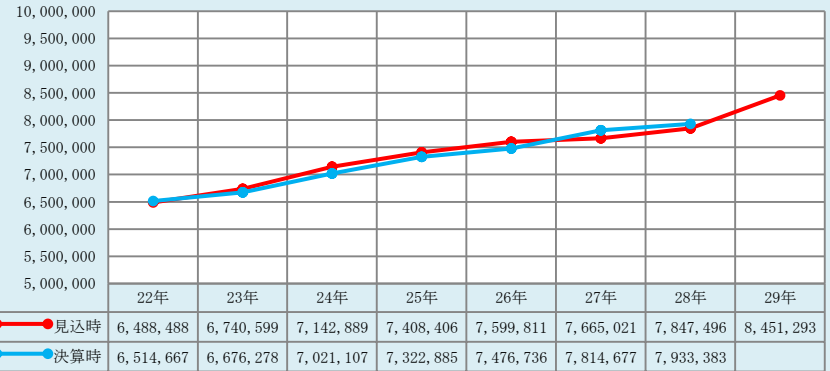
# 支出計の推移 (平成22年度～平成29年度)

# 支出の部

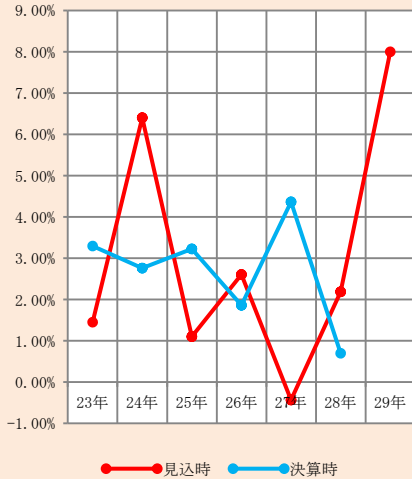
## 石川支部



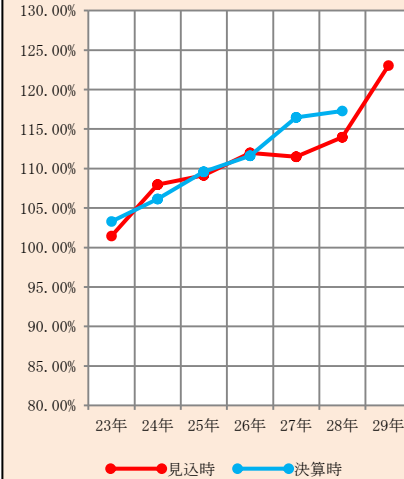
## 全国



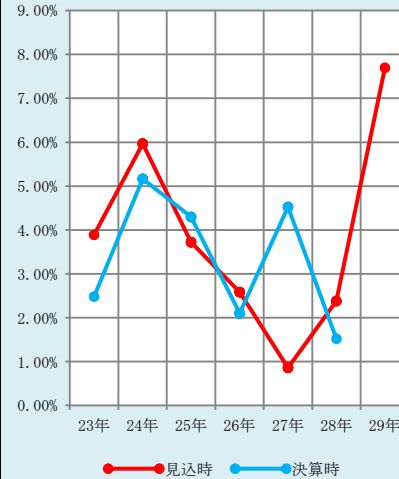
## 前年対比



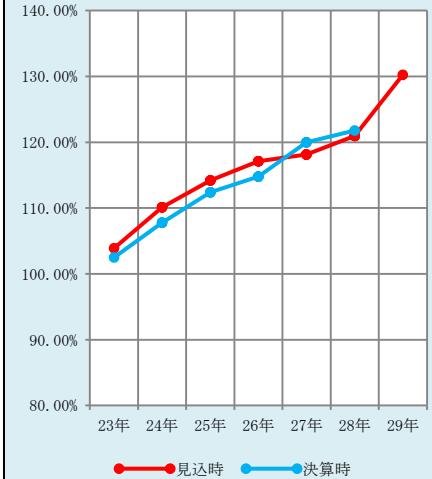
## H22年度を100とした伸び率



## 前年対比



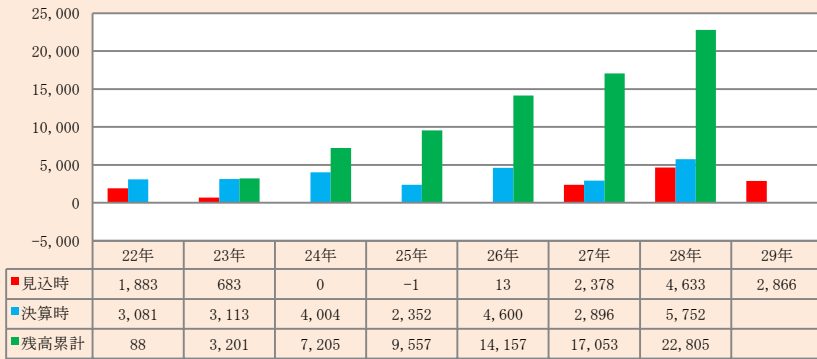
## H22年度を100とした伸び率



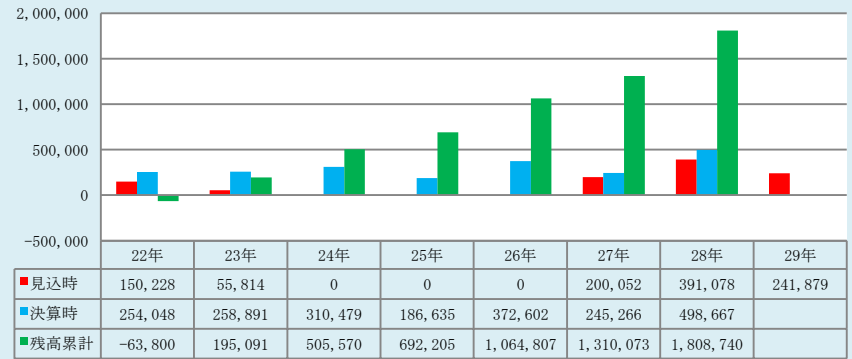
### 特徴

- ・支出は伸び続けているが、石川支部の伸びは全国平均を下回っている。
- ・平成28年度までの実績値の趨勢に比べ、平成29年度の見込値は前年度を7%以上上回る予測をしている。

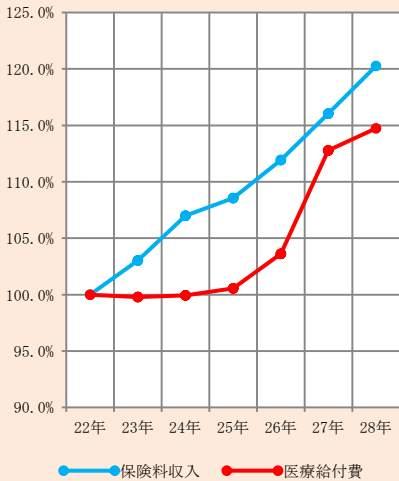
## 石川支部



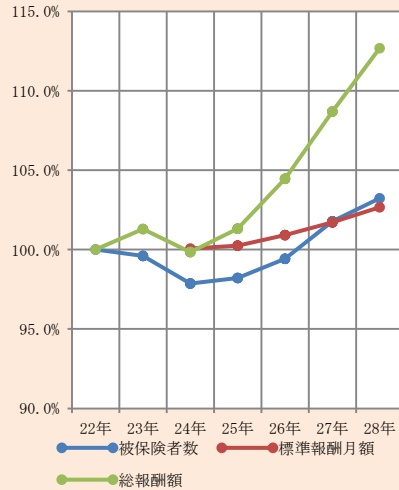
## 全国



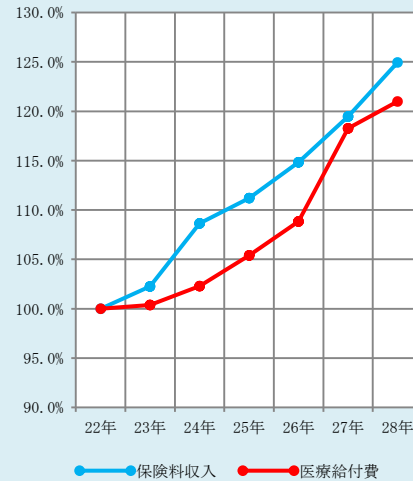
### 主要収支項目の推移



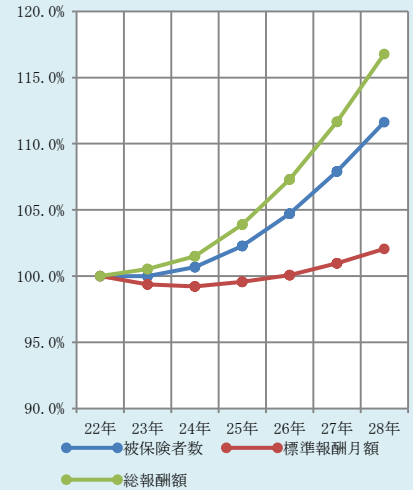
### 主要指標の推移



### 主要収支項目の推移



### 主要指標の推移



特徴

- ・ 保険料収入の伸びは、医療給付費の伸びを上回っている。
- ・ 標準報酬月額の伸びは低い、被保険者数の伸びは高い。
- ・ 総報酬額は伸び続けているが、特に平成26年度以降の伸びが顕著である。



# 全体要約

部	項目	傾向と水準			
指標	保険料率	決算(収支均衡)保険料率は適用保険料率を下回り続けている。 見込み(収支均衡見込み)保険料率は決算保険料率を上回り続けている。			
	総報酬額	伸び続けている。(平成22年度を100とした場合平成28年度は117%)			
	加入者数	同	(平成23年度	同	108%)
	被保険者数	同	(平成23年度	同	112%)
	標準報酬月額	平成22年度を100とした場合28年度は102%(ただし、23年・24年・25年度は下回り、26年度以降上回る。)			
収入	収入計	同	(平成22年度	同	125%)
支出	医療給付費	同	(平成22年度	同	121%)
	抛出金等	同 内訳	(平成22年度 (前期高齢者納付金	同 同124%	118%) 後期高齢者支援金 同134%)
	支出計	同	(平成22年度	同	116%)

- 収入の伸びは支出の伸びを上回っている。
- 収入の伸びは医療給付費の伸びを上回っている。
- 前期高齢者納付金・後期高齢者支援金の伸びは収入の伸びを上回っている。
- 総報酬額の伸びと支出の伸びはほぼ同水準である。
- 加入者数、被保険者数の伸びは支出の伸びを下回っている。
- 標準報酬月額の伸びは支出の伸びを大きく下回っている。



## 全国健康保険協会の財政状況についての所見

金沢大学

人間社会研究域 経済学経営学系/人間社会学域 地域創造学類 福祉マネジメントコース

大学院 人間社会環境研究科 講師 村上慎司

私は全国健康保険協会の財政状況について以下の二つの所見を述べたい。

第一に、保険財政の傾向を判断するうえでの統計項目の選択である。「第 80 回全国健康保険協会運営委員会（28 年 12 月 6 日）議事録（抄）」や「協会けんぽ（医療分）の 28 年度決算（見込み）について」（平成 29 年 7 月）の 10 ページにある「協会けんぽの保険財政の傾向」といった資料において、医療費（1 人当たり保険給付費）の伸びと賃金（1 人当たり標準報酬月額）の伸びとを比較したうえで保険財政の脆弱性・赤字構造を指摘している。

しかしながら、私は、この二つを比較することだけで赤字構造を判断することの妥当性に疑念をもつ。なぜなら、賃金の伸びは被保険者の人数の増減を考慮できず、また、医療費の伸びは一層の高齢化が予測されるなかでの拠出金等の変動を把握できず、したがって、これらの二つのみでは保険財政への影響を正確に判断することが困難ではないかと考えられるからである。さらに、近年では単年度収支差はプラスが続いた結果として準備金残高は増加しており、こうした状況を赤字構造と表現することに対して、私は違和感を覚える。

私は、医療費の伸びと賃金の伸びとの比較が判断材料の一つを提供することを否定しないが、単年度収支差の傾向が財政構造を判断するうえで決定的な役割を果たすと考え、このことを含めたより総合的な観点から財政構造を判断するべきであると主張する。

第二に、財政状況を考察するうえでの公正性の意義である。全国健康保険協会はキーコンセプトの一つに「加入者及び事業主の信頼が得られる公正で効率的な運営」を掲げている。他方で、「被用者保険の受け皿として健全な財政運営」も重要なキーコンセプトである。場合によっては、公正な運営と健全な財政運営とは鋭い価値判断の対立を招く。こうした場合において、財政運営は数量的な表現が容易であるのに対して、公正な運営はその内実を表現し難いだろう。

ここで、社会保障の規範理論に関する知見を援用したい。それによれば、公正性とは制度運営を通じて実現される人々の状態の差異を是正するか否かという価値判断に関わる。とりわけ、考慮すべき対象は最不遇層に属する人々の生活実態である。こうした抽象的な知見からのインプリケーションとして、私は昨年平成 28 年 10 月から実施された保険加入対象者の拡大に関する問題を取り上げたい。この拡大改正によって、新たに加入した人々は、労働時間が相対的に短く、不安定な雇用形態に従事し、所得水準があまり高くないことが予想される。公正な運営を判断するためには、最不遇層が制度改正によってどのような影響を受けたのかを実証的に明らかにする調査に基づく必要がある。

私は、保険料を設定する際に、私は財政的持続可能性と同時に最不遇層を中心とする保険料負担の実態を合わせて検討しつつ、公正性その他の価値判断との間で重みづけを行う議論の意義を主張する。このことは、保険財政が赤字構造か黒字収支かといった争点だけでは捉えられない保険料負担のあり方やその緩和策などの新たな重要な議論が呼び込む契機となり、より幅広い視野からの財政状況の検討が可能になるだろう。以上。